

字別意見交換会で挙げた主な意見と回答

跡地利用全般に関する意見

●普天間において、何を整備すれば良いまち、収益のあるまちになるのか。どのようなプロセスで跡地利用計画の実現を図ることになるのか。

→計画については地権者、市民から様々な意見を伺いながら、跡地利用計画を策定していく。

●普天間飛行場跡地が放映されたプロモーションビデオのようなまちになると思う。

●地権者としては、自身の考えや意見を明確にして、後で「こんなはずではなかった」とならないよう、十分に配慮する必要がある。



緑の中のまちづくりに関する意見

●緑のネットワークとは具体的にどのようなイメージなのか。

→緑で公園、住宅、都市拠点ゾーン等を結ぶイメージである。

●緑の中を歩きながら目的地に行くことができるような歩行者ネットワークを考えたい。

交通に関する意見

●沖縄に咲く花木の並木道があると魅力的な道路になるのではないかと。

●並松街道は、歩行者専用道路として歩いてみたい。

●単に駅を設置するだけでは通過駅となり、人が訪れない。そうならないよう、宜野湾が起点となる施設が必要だと考える。

地域資源に関する意見

●地下洞穴の活用として、泡盛古酒の貯蔵や、観光資源としての活用が考えられる。

●地下洞穴を観光資源として活用する場合は、洞穴と人々との関わりについても説明した方がいい。

産業振興に関する意見

●世界中の人が訪れ働ける場所という考えも良いが、市民の働ける場所も欲しい。

●振興拠点ゾーンに誘致する国内外の企業や団体等は、宜野湾市や沖縄県の若者の雇用の場の創出にもなる。

宜野湾市軍用地等地主会 又吉会長

普天間飛行場跡地のまちづくりにあたっては、地権者の皆さまのご意見が重要となります。今後も継続的に意見交換が行える場づくりを行ってまいりますので、ご家族と共に積極的にご参加くださいますようお願いいたします。

現在の跡地利用に向けた取り組みを次世代につないでいくことが重要



【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号
電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。



ふるさと

vol.51

2020 March
3月 発行

宜野湾市基地政策部まち未来課

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に係る最新情報をお伝えします。

字別意見交換会を開催いたしました

宜野湾市と宜野湾市軍用地等地主会は、米軍普天間飛行場の地権者の皆さまを対象とした「字別意見交換会」を実施しました。開催概要は下記のとおりです。なお、意見交換で挙げた主な意見及び回答は裏面にてご紹介します。

普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取り組みについて

「普天間未来予想図」のプロモーションビデオを放映しました!!

沖縄県と宜野湾市は、普天間飛行場の跡地利用計画の策定に向けた検討を進めております。

意見交換会では、普天間飛行場の跡地利用計画について、地権者の皆さまがイメージしやすいようヴァーチャルリアリティ技術を活用し制作したプロモーションビデオ、「普天間未来予想図」を観ていただきました。



下記のQRコードやURLからもご覧いただけます!!

▶ QRコード
でアクセス



▶ 「普天間未来予想図」で検索

普天間 未来予想図 検索

▶ URLを直接入力

<http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mirai/>

「計画内容の具体化」について若手の会がわかりやすく説明しました!!

現在、普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けて、「計画内容の具体化」に関する分野別の検討を進め、素案策定に向け取り組んでいます。

「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」では、跡地利用に関する検討内容について理解を深めています。地権者の皆さまにも内容をより良く知っていただくため、若手の会より説明を行いました。

今年度の検討内容については中面に掲載しておりますので、ご覧ください。

若手の会による説明の様子



開催概要

11月25日(月) 宜野湾市立中央公民館、
29日(金) 大山区公民館、30日(土) 宜野湾市役所

普天間飛行場の跡地を考える

若手の会の活動内容

若手の会とは？

- ・普天間飛行場跡地利用に向けた地主側の組織として、普天間飛行場返還後のまちづくりをけん引する人材の育成と若い世代の意向把握を目的として平成14年に発足しました。
- ・跡地利用について地権者の立場で検討し、意見を発信する場として活動しています。

《令和元年度の活動概要》

定例会、自主会、字別意見交換会、視察の開催

- ・「環境づくりの方針」をテーマに勉強や視察を行ったほか、将来的な組織のあり方について検討しました。

新メンバーを募集しています！！

- ・普天間飛行場の地権者、その家族であれば、どなたでも「若手の会」のメンバーとすることができます。
- ・本会に興味・関心のある方は、宜野湾市まち未来課までご連絡下さい。

令和元年度の活動の背景

返還後のまちづくりを円滑に進めるためには、早い段階からの **地権者の意見が重要！！**

とはいえ、跡地利用計画に対する地権者の意見は少ない…。

跡地利用に対して多くの地権者が意見を発信していけるよう、**地権者の意見を引き出すための呼び水として、若手の会の考えを発信しよう！**

そのために… ●跡地利用計画の具体化内容（環境づくりの方針）について知識習得 ●先進地視察（茨城県つくば市、千葉県柏市等） ●字別意見交換会で地権者との意見交換 ●定例会等での意見交換 等

令和元年度版

「環境づくりの方針」に関する若手の会の考え

緑の中のまちづくり（考え方）

【緑の中のまち】

- ・みどりがまち全体を包み込み、日常的に緑豊かな環境で生活できるまち
- ・敷地の一定割合を緑化
- ・公園等の配置により、ゆとりある空間が形成され、人と自然が触れあうようなまち

【ネットワーク型の緑】

- ・様々な場所を幅広の緑地帯でつなぐ
- ・木陰の中を徒歩で移動できる

【住民意識】

- ・緑の質の維持・向上に向けて住民の意識を高める 等



緑に包まれた図書館のイメージ

緑の空間イメージ

【住宅地のみどり】

- ・オープンガーデンや生垣を配置
- ・ゆとりと緑のある住宅地
- ・傾斜を活かした宅地開発

【大勢の人が集まる場所のみどり】

- ・木陰を生み、人々が交流できる空間

【公園のみどり】

- ・小さな森を再現

【道路のみどり】

- ・従来の植栽スペースより広くし、樹々を育てる発想で植栽 等



公園における小さな森のイメージ

大規模公園の考え方

【テーマ】

- ・メインテーマを「平和」とする

【規模】

- ・大規模公園の魅力や価値に配慮し、中核は90ha程度確保し、飛行場内の緑や周辺の緑地帯を有効活用して100ha以上を確保

【施設・設備】

- ・人工的な貯水池を整備。人工池には水上ステージ等を配置し、観光資源として活用
- ・重要な遺跡は1箇所にとめた方が動線的にも良い 等



大規模公園のイメージ

地域特性

【地下空洞】

- ・上部を緑地とすることにより保全

【湧水】

- ・湧水が枯渇しないよう、雨水を浸透させる工夫を施す
- ・湧水をせせらぎとして街中に引き込む

【「宜野湾」の歴史】

- ・旧道をそのまま残し遊歩道として活用
- ・基地内周回道路をサイクリングロードとして残す
- ・並松街道を復元

【安全への配慮】

- ・返還前の段階から、基地内の汚染実態を把握、対策、除去など地主として今主張すべき 等



サイクリングロードのイメージ

普天間飛行場跡地 開催概要 まちづくり講座

『普天間飛行場跡地返還後のまちづくりで大切なこと』

銘苅新都心自治会における地域コミュニティの形成と取組みを事例として

地権者も市民も一緒になって普天間飛行場跡地のまちづくりに取り組めるよう、昨年度に引き続き、まちづくりについて学べる講座を開催しました。

第1回 令和2年1月18日（土）開催
地域コミュニティのつくりかた

講師 前原 信達 様 銘苅新都心自治会 会長 / 那覇市自治会長連合会 会長

講師 池田 孝之 様 琉球大学名誉教授 / NPO 法人沖縄の風景を愛する会理事長



地域の宝をどう発見できるかが重要

目に見えない部分（コミュニティ等）をどのようにつくっていくかの視点が重要

第2回 令和2年2月1日（土）開催
銘苅新都心のまちづくり



新都心の公園は規模や使われ方が多様、そして、地域でうまく活用している！

新しいまちづくりの中でも、地域の歴史・文化を継承している！

第3回 令和2年2月15日（土）開催
普天間飛行場返還後のまちづくりで大切なこと



公園はイベントや災害への備え等、利用目的に応じた整備が大切だと思う！

歴史文化資源の保全・活用は歴史性や重要性を十分に調査・認識した上での検討が大切だと思う！

講師総括

いい地域とは？誰がどのようにつくる？

- 地域を深く知り、地域を使いこなせるようになると、アイデアが生まれ、人と人が繋がる。そうすると、自助力と共助力が高まる。そうして、自治の力が高まった地域はいい地域と言える。
- いい地域づくりに向け、学習機会の提供や人材のマッチング、活動場所の提供等、行政の支援も重要となる。

続けていくためには？

- 若い世代や子どもたちに地域のことを伝え続け、地域を使いこなす人を多く増やしていくことが重要である。